

環境心理生理運営委員会 議事録 2011 年度 第 1 回

文責 辻村

- A. 【日 時】 2011 年 5 月 26 日 木曜日(17:30～19:30)
- B. 【場 所】 建築会館 会議室
- C. 【出席者】 松原斎樹(主査)、辻村壮平(幹事)、大井尚行、小島隆矢、長野和雄、
西名大作、宗方淳 (以上委員)
原直也 (以上オブザーバ)
順不同・敬称略
- D. 【配布資料】 2011 年度 第 1 回 環境心理生理運営委員会 会議資料
2011 年度 第 1 回 環境工学本委員会 会議資料(抜粋)
2011 年度 環境心理生理運営委員会 委員名簿
2011 年度 環境心理生理運営委員会傘下の各小委員会の活動計画
2011 年度 建築学会大会懇談会 資料

E. 【報告事項】

1. 本運営委員会の委員の紹介

本運営委員会の本年度の委員の自己紹介が行われた。会議を欠席している委員については、松原主査から各委員の紹介があった。

2. 2011 年度第 1 回 環境工学本委員会における話題

環境工学本委員会の会議資料に基づいて、本委員会で議論された内容の中で本運営委員会に関連のある事項を松原主査が報告された。以下にその内容を記す。

(1) 東日本大震災関連

- 東日本大震災調査復興支援本部が設置され、その中の研究・提言部会に常置調査研究委員会が置かれている。この委員会組織の中に環境工学本委員会は設置されている。
- 平成 23 年 3 月 30 日に制定された東北地方太平洋沖地震災害調査ガイドラインが、同年 4 月 25 日に改定された。
- 東日本大震災対策に関する対応について、環境工学本委員会では環境工学分野に関する研究・提言の取りまとめを行う組織として、震災対応住宅・建築環境 WG と震災対応都市環境 WG を設置する方針である。
→ 都市環境 WG では、企業の研究者を委員に加えたいという考えがあるようで、環境心理生理分野から都市環境 WG に委員として推薦できる研究者を議論したい。
- 2011 年 6 月 30 日には、緊急シンポジウム『東日本大震災に対して環境工学ができることー被災状況と夏の電力需給逼迫への対応ー』が開催される。
- 光環境運営委員会では、震災に伴う電力不足に対応するための調査研究を行う組織として、3 つの WG の設置申請を行っている。さらに、照明環境に対する緊急提言を発表する予定である。

(2) 2011 年度建築学会大会関連

- プログラム編成会議の報告として、2011 年度の大会発表題数は 6388 題で、環境工学分野では 1253 題である。2011 年度の環境心理生理分野の OS のテーマは『知的活動と

環境』で、投稿数は7題であった。

- 本年度の大会研究懇談会の原稿の締め切りは6月末である。
- 大会期間中に委員会を開催する予定の委員会は、7月8日（金）までに事務局に所定の申し込み書類を提出しなければならない。
- 東日本大震災の被災者に対しては、原稿の投稿締め切り日を延長し、建築学会大会とは別に研究発表会を開催する方針である。

(3) その他

- 今後、環境工学本委員会の会議資料はパスワードを入力し、ダウンロードできるような方式になる。
- 予算の執行に関して、2011年度の予算は125,000円である。昨年度の環境工学分野の予算消化率は73%であったが、予算はできるだけ消化することが望ましい。本運営委員会でも予算は全て消化することを再確認した。
- 小委員会の委員委嘱について、建築学会の非会員は原則委員になれないが、環境工学本委員会で非会員が8割を占めるような委員会の存在が問題であると議論になったことを松原主査が報告された。

3. 本運営委員会傘下の各小委員会の活動報告

本運営委員会傘下の各小委員会の主査の先生から（主査が欠席の場合は該当委員会の委員から）それぞれの活動報告があった。

- 環境心理小委員会の主な活動としては、環境心理生理研究で用いられる研究手法の普及及び研究レベルの向上を目的としたチュートリアルの開催である。
- 感覚・知覚小委員会の主な活動は、感覚・知覚シンポジウムの開催を軸に、研究分野間の横断的な研究交流を行うことである。
- ヒューマナイジングの実践小委員会では、新たな委員を加え、これまでのヒューマナイジングの実践状況に関する情報の収集・整理を継続し、実践を前提としたヒューマナイジング研究の研究手法や研究対象の拡張の可能性を検討している。

F. 【審議事項】

1. 建築学会大会研究懇談会での発表内容について

本年度の大会研究懇談会は『環境工学研究の最前線と分野連携－自然・生態環境と人工環境の融和に向けて－』というテーマである。本運営委員会からは松原主査が発表者となっており、本運営委員会及び傘下の各小委員会の活動報告のみではなく、テーマに関連した内容とする必要があるため、研究懇談会での発表内容について議論が行われた。

2. 震災復興支援対策について

震災復興支援対策として協力できることに関して、本運営委員会で議論が行われた。以前にメール審議で傘下の各小委員会に意見を求め、その内容を「今できること」と「将来に備えること」に分けてまとめたものを環境工学本委員会に提出しているが、実際の被災地に対してできることをもう少し考えてみる必要があるのではないかという意見が挙げられた。さらに、現地調査などで調査被害になることに十分注意し、その上で被災地の状況や被災者が望んでいるものを把握することが重要であるという意見もあった。環境心理生理分野の立場としては、調査手法に関する知見を提供する後方支援的な役割を尊重すること

でまとまった。

また、環境工学本委員会で設置された震災対応都市環境 WG に対して、環境心理生理分野で活躍されている若林さんを委員として本運営委員会から推薦してはどうかという意見が挙げられた。

3. 非会員に対する委員委嘱について

本運営委員会傘下のヒューマナイジングの実践小委員会で非会員の委員がいることについて本運営委員会で議論を行った。この委員は委員会に多大な貢献をされており、現在でも環境心理生理分野で活躍されているので、オブザーバとして委員会に協力して頂けるようお願いするという話で話がまとまった。

4. 今後の環境心理生理運営委員会の開催日程について

本運営委員会の今後の開催日を議論し、2011年度の本運営委員会の開催予定日がひとまず決まった。

【開催予定】 2011年9月22日(木) 17:30～19:30
2011年11月8日(火) 17:30～19:30
2012年2月21日(木) 17:30～19:30

G. 【次回の開催日程】

2011年9月22日(木) 17:30～19:30

以上